

益子国際工芸交流事業 2015

アーティスト・イン・レジデンス in 益子  
ー リサ・ハモンド + クライヴ・ボウエン ー

Mashiko Museum Residency Program 2015  
Artists in Residence in Mashiko  
Lisa Hammond + Clive Bowen

春

秋

# 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

## 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

#### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

##### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

###### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

###### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

###### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

###### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

###### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

###### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

###### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

###### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

###### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

###### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

###### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

###### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

###### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

###### 益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館

## 目次 Contents

3	ごあいさつ	Foreword
5	リサ・ハモンド	Lisa Hammond
6	・作品	・ Works
7	・交流イベント	・ Cultural Exchange Events
9	クライヴ・ボウエン	Clive Bowen
10	・作品	・ Works
11	・交流イベント	・ Cultural Exchange Events
13	素材・技術	Materials and Techniques

益子国際工芸交流事業は、町出身の篤志家・大塚実氏の御寄付に基づき、2014年5月に始まりました。益子町と海外のアーティストの交流促進や、益子の陶芸(工芸)文化の共有を目指し、作家の招聘事業や教育普及プログラムを実施しています。昨年度に引き続き、2年目となる今年度も益子町と歴史的にも縁のある「イギリスの陶芸」をテーマに、イギリスを拠点に活躍する二人の陶芸家を招聘しました。各々の作家は益子国際工芸交流館に滞在し、作品制作、記念講演会、制作実演などを行ないました。

春に滞在したロンドン在住のリサ・ハモンド氏(1956年生まれ)は、イギリスの大学で陶芸を学んだ後に独立し、ソーダ釉に関する先駆的な研究を重ねてきた陶芸家です。2004年岐阜県美濃での滞在を機に、志野にも関心を抱くようになり、現在はソーダ釉と志野を並行して追求しています。益子滞在中は、益子の土や釉薬を用いながら、普段の作風に近いテーブルウェアや茶陶を制作しました。また同時期には、東京工業大学が毎年益子で催しているやきものづくりのプログラム「東工大POTTERY CAMP」が行なわれました。当館の登り窯で学生達と一緒に作品を焼成するなど、作家にとっても日本の若い世代との交流を深める良い機会となったことでしよう。

秋に招聘したクライヴ・ボウエン氏(1943年生まれ)は、田園風景の広がるデヴォン州シェビア在住で、イギリスの伝統的な陶器であるスリップウェア制作の第一人者として、国際的に活躍しています。滞在中は、益子の原土を用いて多種多様なスリップウェアを作るとともに、町内の様々な行事に参加し、地元の陶芸家や町民との交流を深めました。また今回は新たな試みとして、一般の方が直接作家とお話ししながら、やきものづくりに参加できるワークショップを実現することができました。

本展では、両作家が益子滞在中に制作したものの中から代表的な作品を選び、制作のプロセスに焦点を当てながら、滞在制作の様子をご紹介します。長年にわたり日常の器制作を追求してきた二人の陶芸家は、それぞれのように益子の伝統を解釈し、作品づくりに挑んだのでしょうか。二人の滞在の成果を、滞在中の様子を写した写真とともに楽しみたいできれば幸いです。

終わりに、本事業の実施にあたりご協力をいただきました関係各位に心より御礼申し上げます。本事業が、一人でも多くの人にとって陶芸や海外の芸術文化に親しむ契機となり、また新たな創造の起点となりますよう、今後も本事業へのさらなるご理解とご支援をお願い申し上げます。

益子陶芸美術館長 法師人 弘

Mashiko Museum Residency Program began in May of 2014 under the generous donation from Mr. Minoru Otsuka, a Mashiko-born benefactor. The program invites exceptional artists from overseas and hosts educational events with the aim of cultivating exchanges between the town of Mashiko and international artists. It also aspires to share Mashiko's ceramic and other craft traditions with the world. Continuing with the theme "British Ceramics" from the first year, based on the historical connections between Mashiko and the U.K., we invited two ceramic artists from England last year. Each artist stayed at the Mashiko Arts and Crafts Residence, made work in the studio, and presented lectures and workshops.

Lisa Hammond (b. 1956), who visited last spring, is a pioneer of soda fires. She established her pottery in London after studying ceramics in university, and has since dedicated herself to the investigation of soda glazes. She became interested in shino glaze after a visit to Mino, Gifu Prefecture in 2004, after which she began to pursue shino alongside soda. During her residency in Mashiko, she made tableware and tea bowls similar to her usual style, but using local clays and glazes. Coincidentally, an annual event here at the Museum with the Tokyo Institute of Technology called, "Tokyo Tech. Pottery Camp", took place during this period, which allowed the students from the university and the artist to collaborate in the firing of the climbing kiln.

Clive Bowen (b. 1943), the artist we invited in the fall, is an internationally known expert on traditional English slipware who resides in the rustic town of Shebbear, Devon. During his residency, he made diverse slipware using Mashiko's original clay, participated in various community events, and deepened exchanges with local potters and townspeople. We were also able to realize a new initiative: a workshop for the general public where participants can talk directly with the artist-in-residence while making pottery.

For this exhibition, we have selected representative pieces by the two artists from their respective residencies. With the focus on the process of making, we will show images of them working in Mashiko. We hope you will enjoy seeing how the two artists interpreted the traditions of Mashiko, along with the photographs from their time here.

Finally, we would like to express our gratitude to all the individuals who helped make this program possible. We hope this program will be a catalyst for many to become familiarized with ceramics and foreign art, and that it will be a springboard for new creative directions. We appreciate your continual understanding and support.

Hiroshi Hoshito  
Director, Mashiko Museum of Ceramic Art

#### 凡例

- ・本書は2016年2月2日(火)から3月6日(日)まで益子陶芸美術館で開催される「益子国際工芸交流事業2015 アーティスト・イン・レジデンスin益子ーリサ・ハモンド+クライヴ・ボウエンー」展の図録である。
- ・本書のデザイン・制作は月村真由美が行なった。
- ・作品写真は横堀聡が撮影した。寸法は、高さ×幅×奥行または高さ×径(cm)を表している。作品の所蔵は全て益子陶芸美術館である。
- ・本書の編集は月村真由美・阿部智也・松崎裕子、翻訳はデイ麗奈が担当した。

#### Editor's Note

- ・The following is an exhibition catalogue for the exhibition "Mashiko Museum Residency Program 2015 Artists in Residence in Mashiko Lisa Hammond + Clive Bowen" being held at the Mashiko Museum of Ceramic Art from 2 February through 6 March, 2016.
- ・This catalogue was designed by Mayumi Tsukimura.
- ・The photographs of works were taken by Satoshi Yokobori. Dimensions in the plate captions contain height×width×depth, or height×diamater/cm. All works are in the possession of Mashiko Museum of Ceramic Art.
- ・This catalogue was edited by Mayumi Tsukimura, Tomoya Abe and Yuko Matsuzaki, and translated by Reina Day.

# リサ・ハモンド Lisa Hammond 2.15SUN-4.6MON

## 作家のことは

この35年間、私は揮毫釉の器を作り続けてきました。専ら、高火度で焼成するソーダ釉の実用陶器を制作しています。それらは広い意味で、料理の準備をしたり調理したり食事を出したりするための器です。スリップの生がけをさまざまな焼成スケジュールで行なうことにより、作品には豊かな色彩と質感がもたらされます。近年、私は「ソーダ志野」の作品の幅を広げてきました。ソーダ窯の中で、志野風の釉薬を使った作品をスリップウェアの器と隣り合わせに焼成しています。

2001年、ロンドンのメイズヒルにある私の工房で、美濃の陶芸家・高橋利通と会う機会がありました。このことは、新たなものの見方や作陶を始めるきっかけとなりました。

非常に大きな影響を受けたのは、初めて見た加藤唐九郎の茶碗です。なんと力強い器でした。柔らかく震える志野の下から生氣を覗かせていました。

3年後、私は美濃にある利通の工房で3カ月間、共に過ごしました。素晴らしい土を使って作陶し、一緒に作品を展示しました。私たちは器という共通言語で会話しました。

私は利通とともに仕事をする中で大きな自由を感じました。作陶しながら、その時々土の状態に応じていく。こうしたやり方で、器が一つ一つ出来上がっていきました。陶芸家と土の間で交わされた独特の対話です。

この時以来、何かを真似することではなく、自分自身の声を見出すことが、私の使命となりました。

## Artist's Statement

For the last 35 years I have been making vapour glaze pots, concentrating on producing functional high temperature soda glaze pots for the preparation, cooking and serving of food, in the broadest sense. Raw glazing using slip and a pallet of firing schedules gives the work its rich colour and texture. In recent years I have developed a range of work "Soda Shino". I use Shino type glazes fired alongside the slipware pots, in the soda kiln.

A chance meeting with Mino potter Rizu Takahashi at my studio in Maze Hill, London, in 2001 was the start of a new way of seeing, a new way of making.

Hugely influential was seeing my first Tokuro Kato tea bowl, a pot with power! Vibrancy appearing under soft shivering shino.

Three years later I spent 3 months sharing Rizu's studio in Mino working with wonderful clay and exhibiting together. We spoke the shared language of pots.

I felt an enormous freedom in making with Rizu. The character of each lump of clay at one moment, the moment of making, by working this way, individual pots emerged. A unique conversation between potter and clay.

My mission since then has been not to mimic but to find my individual voice.

1956年 ロンドン生まれ  
1974-78年 メッドウェイ美術大学(ケント)  
1994年 メイズヒル・ポタリーを設立(ロンドン・グリニッジ)

1956 Born in London  
1974-78 Medway College of Art, Kent  
1994 Founded Maze Hill Pottery, Greenwich, London



黒釉面取茶入 2015 年  
Faceted tea jar,  
black glaze  
2015  
H9×Φ7cm



糠白釉流掛面取茶碗  
2015 年  
Faceted tea bowl,  
poured nuka  
(rice husk) glaze  
2015  
H9.5×Φ11.7cm



流掛面取瓶 2015 年  
Faceted bottle,  
poured slip  
2015  
H29×W15×D15cm

刷毛目水差 2015 年  
Jug, hakeme  
(brushed) slip  
2015  
H26.3×W14.9×D10cm



黒釉鉄絵水指 2015 年  
Water pot, black glaze  
with iron painted design  
2015  
H17.5×Φ15.2cm





## 交流イベント Cultural Exchange Events



		B	G
A		C	H
D	E	F	I

### 歓迎パーティ(B)

2月19日(木)  
場所: 益子陶芸美術館サロン  
終了後に大塚朋之・益子町長と記念撮影。

### 記念講演会(G)

3月1日(日) 13:30-14:30  
場所: 益子国際工芸交流館

### 制作実演ワークショップ(H)

3月8日(日) 13:30-14:30  
場所: 陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

### 公開制作(A)

2月27日(金)・3月5日(木)・11日(水)・17日(火)  
14:00-16:00  
場所: 陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

### 窯業技術支援センターでの窯焼き(C)

3月4日(水)～6日(金)  
場所: 窯業技術支援センター  
町内の窯業指導所で卒業制作の登り窯に参加。

### 東工大POTTERY CAMP 2015(F.I)

3月27日(金)～28日(土)  
場所: 益子陶芸美術館／陶芸メッセ・益子  
東工大の学生たちと同じ窯で作品を焼いた。

### 松崎健氏の織部の窯焼き(E)

場所: 遊心窯

### 濱田友緒氏の塩窯(D)

場所: 濱田窯工房









## 交流イベント Cultural Exchange Events



		B	G
A		C	H
D	E	F	I

### 歓迎パーティ(C)

10月23日(金)  
場所: 益子陶芸美術館サロン  
終了後に大塚朋之・益子町長と記念撮影。

### ワークショップ「クライヴ・ボウエンさんと一緒にスリッウェアのお皿を作ろう!」(I)

11月23日(月・祝)  
場所: 益子国際工芸交流館

### 制作実演ワークショップ(H)

11月28日(土) 13:30-14:30  
場所: 陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

### 記念講演会(B・G)

12月6日(日) 13:30-14:30  
場所: 益子国際工芸交流館

### 公開制作(E・F)

11月10日(火)・18日(水)・26日(木)  
14:00-16:00  
場所: 陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

### 炎まつり(A)

11月20日(金)～22日(日) 窯焼き  
11月29日(日) 窯出し  
場所: 陶芸メッセ・益子

### ディラン・ボウエン(D)

10月29日(木)-11月6日(金)  
陶芸家である長男のディランも9日間一緒に滞在しました。



## リサ・ハモンド

リサ・ハモンドは普段、ロンドンで志野やソーダ釉の作品を作っています。2004年に美濃で高橋利通の工房に滞在した経験から茶陶や壺など日本らしいものから、オープンウェアや水差などイギリスらしい作品まで幅広く見ることができます。益子では益子の原土、赤土、並土、益子の伝統釉を使用しました。窯業技術支援センターでの登り窯、松崎健氏の工房での窯焼き、濱田友緒氏の塩窯、東工大POTTERY CAMPの登り窯(陶芸メッセ・益子にて)にも参加しました。スティックに作り続けていく中で、ダイナミックな釉がけや泥がけが豊かな表情を生み出しました。

左上) スリップ(泥)を壺にかける  
右上) 水指の蓋にハンドルをつける  
左下) 様々な形の器の素焼き  
右下) チーズを削る道具でオープンウェアの面取りをする



## 素材 ・ 技術 Materials and Techniques

## クライヴ・ボウエン

クライヴ・ボウエンは、益子の原土を使ったスリップウェア作りに挑戦しました。低火度で焼成し、イギリスでの作品に近い色を再現するべくテストを重ねて釉薬やスリップ(泥)を調整しました。普段からドローイングをしたりイラストが得意なクライヴの作品にはエビ、魚、鳥、カニなどのモチーフも出てきます。それらは掻き落とし、筒描き、指描きなどの技法で描かれます。普段から制作しているタイルや水差、オープンウェアなどたくさん作品を焼きました。今回、ロジャー夫人も一緒に滞在され、日本の生活を楽しまれていました。また、交流事業初めての試みとして、一般の方と一緒にスリップウェアの皿を作るワークショップを開催することができました。地元の陶芸家や町民とも交流をする中で、見たものや感じたことをあしらった「益子水差」も新たに生まれました。

左上) 掻き落とし  
右上) 掻き落としで「益子」の字とイチヨウなどのモチーフが描かれた水差  
左下) 型に粘土の板を押し付けて形を作る  
右下) ノッチング(皿の縁にギザギザの模様をつける手法)を施す



益子国際工芸交流事業2015  
アーティスト・イン・レジデンスin益子  
ー リサ・ハモンド + クライヴ・ボウエン ー

編集・制作／益子陶芸美術館  
印刷／有限会社あらい印刷  
発行／益子町文化のまちづくり実行委員会  
〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子3021

Mashiko Museum Residency Program 2015  
Artists in Residence in Mashiko  
Lisa Hammond + Clive Bowen

Editing and Design/Mashiko Museum of Ceramic Art  
Printing/Printing Arai  
Publication/Mashiko-machi, Committee for Promotion of Mashiko Culture Town ©2016  
3021, Mashiko, Mashiko-machi, Haga-gun, Tochigi, Japan 321-4217



